

根室市議会議員 田塚 不二男 様

会派名 市政クラブ  
代表者 工藤 勝代 

## 政務活動報告書

区分	<input type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input type="checkbox"/> 研修 ・ <input type="checkbox"/> 広報 ・ <input type="checkbox"/> 広聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会議
活動テーマ・目的等	北方領土返還要求中央アピール行動参加 街頭啓発（北方領土展）参加
期間	令和4年11月30日（水）～12月2日（金）
参加者氏名	工藤勝代
応対者	「北方領土返還要求中央アピール行動」12月1日（木） 日比谷公園野外音楽堂～全国の返還運動関係者など約500人参加
場所	日比谷公園野外音楽堂→鍛冶橋交差点 1.6キロを進行
行程	11月30日（水） 根室⇒釧路空港⇒羽田空港⇒宿泊ホテル 12月1日（木） 北方領土返還要求中央アピール行進 12月2日（金） 宿泊ホテル⇒羽田空港⇒中標津空港⇒根室
内容・成果等	<p><u>12月1日（木）</u></p> <p><u>「北方領土返還要求中央アピール行動」</u></p> <p><u>日比谷公園野外音楽堂～全国の返還運動関係者など約500人参加</u></p> <p>令和4年12月1日（北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会（北隣協）主催）コロナ禍のため3年ぶりとなる開催が叶いました。ロシアとウクライナの課題のある中であり、返還の灯を消さず、また、高齢の元島民の北方墓参の再開など日本政府へのアピールとしての声も大きく届けることができました。今年度もその様子はオンラインで配信が行われました。</p> <div data-bbox="475 1585 853 2123"></div> <div data-bbox="865 1639 1476 1966"></div>

## 街頭啓発（北方領土展） 新宿駅西口地下イベント広場

「北方領土問題の歴史的経緯」「懐かしの島々」「北方の開拓者たち」等のテーマ別展示をはじめ、「北方四島の自然」約100点のパネルを展示し「なるほど！なっとく北方領土クイズラリー」を実施  
通るかたへのアピール活動と目を引く剥製等の展示で工夫しております。

また、根室管内1市4町の協力を得て、自慢の特産品の販売等活発な様子を確認しました。



根室市議会議員 田塚 不二男 様

会派名 市政クラブ

代表者名 工藤 勝代

## 政務活動報告書

区分	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input type="checkbox"/> 研修 ・ <input type="checkbox"/> 広報 ・ <input type="checkbox"/> 広聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会議
活動テーマ・目的等	札幌市リサイクルプラザ
期間	令和4年8月26日（金）
参加者氏名	工藤勝代
応対者	札幌市リサイクルプラザ 東 飛郎 統括
場所	札幌市宮の沢1条1丁目1-10 ちえりあ 1F 札幌市リサイクルプラザ
行程	8月26日（金） 宮の沢⇒札幌⇒千歳空港⇒中標津空港⇒根室
内容・成果等	<p><b>8月26日（金）</b></p> <p><b>リサイクルプラザ宮の沢</b></p> <p>札幌市では、ごみの埋め立て地の延命化を目的に、市民が「リサイクル（リデュース）」を希望した大型ごみを再利用する取り組みをしています。リサイクルプラザ宮の沢ではそういった大型ごみの抽選販売や、ごみ減量と不用品の有効活用、リサイクル意識の普及向上を目指す活動拠点となっており、札幌市がNPO団体に一部委託し運営しております。（市の職員の配置もあり、年間予算2,000万円）</p> <p>主催イベントでは家庭ごみを減らす情報発信が行われ、講師派遣もしております。さらに、「イベントで使用するリユース食器の貸し出し」や管理も行いイベントゴミを減らす活動も支援しています。</p> <p>宮の沢の建物内には食器、洋服の無料提供があり、また、受け入れも行われています。場内の掲示板では、市民の「ゆずりたい・ゆずってほしい」の情報が交換できる仕組みも作られています。</p> <p>大切に物を使い、捨てる前にもう一度活用できる場となり得る、3Rを実現する拠点となりました。</p> <p>また、SDGsの考えを取り入れた「親子で海の環境満喫バスツアー」という石狩浜に漂着したごみを拾い、それをもとに環境について子供たちとともに考える活動があり、定員40名のところに、10倍の募集があったとのことのお話です。</p> <p>「物を捨てる前に人に活用してもらえる」足を運ぶ方が「ごみの資源化や、ごみを増やさない工夫を知る」など、根室市に取り入れることができるヒントが多くありました。</p> <p><u>最初は民間団体による活動から始まり</u>、そこが市民に好評となり委託へ至るといった経過があります。ごみや環境問題への意識が高まることの重要性を実感しました。根室市においても、その可能性を検討したいと思います。</p>

根室市議会議員 田塚 不二男 様

会派名 市政クラブ

代表者名 工藤 勝代

## 政務活動報告書

区分	<input type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 研修 ・ <input type="checkbox"/> 広報 ・ <input type="checkbox"/> 広聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会議
活動テーマ・目的等	北海道大学公共政策大学院 地方議員・公務員向けサマースクール
期間	令和4年8月24日(水)～8月25日(金)
参加者氏名	工藤勝代
応対者	(北海道大学公共政策大学院) 北海道大学公共政策大学院院長 空井衛氏、事務局：佐藤氏 【1日目：講演者】 環境省北海道地方環境事務所統括環境保全企画官 小高 大輔氏、秋田県にかほ市総合政策課 高橋 潔氏、北海道ニセコ 町環境課環境モデル都市推進係係長 島崎貴義氏 【2日目：講演者】 北海道大学公共政策大学院教授 中尾文子氏 名古屋大学教授 丸山 康司氏
場所	北海道大学公共政策大学院
行程	8月24日(水) 根室⇒中標津空港⇒千歳空港⇒会場(札幌市) 8月25日(木) 会場(札幌市)
内容・成果等	<u>8月24日(水)</u>  <b>北大公共政策大学院サマースクール1日目</b> 「地域を豊かにするカーボンニュートラルの実現における市町村の役割」 2050年のカーボンニュートラルの達成に向けて、さまざまな取り組みが進められており、市町村が合意形成を行いつつ、導入促進区域を定める制度が2022年4月から始まりました。 ここでは、環境省としてカーボンニュートラルに向けた市町村の役割について、①地域のレジリエンス機能の強化、②地域経済への便益の創出、③地域の安全性の確保について、等の説明がありました。  秋田県にかほ市の講演は市民風車「夢風」の事例や地域に貢献する再生可能エネルギーの在り方として「 <u>風車まちづくり基金</u> 」の事例が紹介されました。基金では風車事業主との相互交流が行われており再生可能エネルギーへの地域理解が広がっていました。また、風車事業主の協力により地域物産品の購買範囲拡大等の実績がありました。

ニセコ町については、地域の景観・環境規制に共感する住民が暮らしにカーボンニュートラルを両立させることができる NISEKO 生活・モデル地区ニセコミライについての紹介や、抑制区域を設け再エネ事業者が区域を含まないように防ぐことなども説明されました。

## 8月25日（木）

### 北大公共政策大学院サマースクール2日目

「地理情報の活用」「バードストライク対策」「地域に合わせたゾーニングマップ」これらをテーマに「REPOS」リーポス（再生可能エネルギー情報提供システム）「EADAS」イーダス（環境アセスメントデータベース）を利用して、地域をゾーニングする場合に必要な情報を地図に表記することをテーマに操作の説明を受けました。

再生可能エネルギー情報提供システム REPOS では、地域の自然環境・社会環境の情報を地図上に表すことはできないので、EADAS と併せての利用が必要であり、さらに、色によって向いている場所、環境に配慮が必要な場所と分けられた地図が表示されますが、これらを参考にしたうえで、更に地域の特性を組み入れたゾーニングを考える必要があるとのことでした。

ゾーニングにはまず「地域への説明・意見交換・合意形成・理解」が必須であり、そこに時間をかけることが重要であり、また、アセスメントで住民との合意形成ができている地域は「再生可能エネルギーが地域に貢献する事業へ発展している」と説明がありました。

講演内容に照らし合わせて根室市の状況を見ると、ゾーニングについては市民説明を丁寧に行い、ご理解いただくことが重要であり、また、また、地域の将来を守っていくためには再生可能エネルギーを導入することの課題解決へむけて、また再生可能エネルギーの利点を地域に貢献するものとするためにも条例制定が重要であると考えました。

根室市は環境アセスメントの地図の状態では本来なら、全域が注意喚起レベル（環境を守るため再生可能エネルギー建築には注意が必要）な土地として色で示されており、そこに再生可能エネルギーの導入を進めることになり、慎重な議論が必要です。

2日目のグループワークの再エネの地域の可能性について、私の班は「根室半島の再生可能エネルギーの導入の可能性について」であったため、EADAS の地図の提供がありましたので参考として地図資料が出されており、その他の報告資料として提出しております。